

令和6年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（案）

※○数字は「令和6年度（2024年度）みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】	ページ
① 再造林の加速化	・・・ 1
・ 信州の森林づくり事業（人工造林・初期保育の加速化）	
・ 再造林省力化モデル推進事業	
・ 再造林シカ捕獲サポート事業	
② みんなで支える里山整備事業（防災・減災のための里山整備）	・・・ 3
③ 開かれた里山整備事業	・・・ 4
・ 開かれた里山整備事業	
・ 開かれた里山整備・利用事業	
④ あたりまえに木のある暮らし推進事業	・・・ 6
・ 広く県民が利用する施設等の木造・木質化	
・ 木工体験の推進支援	
・ 長野県産材CO ₂ 固定量認証	
⑤ 信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業	・・・ 8
⑥ 学びと育ちの森づくり推進事業	・・・ 9
⑦ まちなかの緑地整備事業	・・・ 11
⑧ まちなかの緑地整備事業緑地保全（補助）事業	・・・ 12
⑨ 観光地周辺の街路樹整備	・・・ 14
⑩ 森林サービス産業総合対策事業	・・・ 15
・ 森林サービス産業活動支援事業	
・ 森林サービス産業人材育成支援事業	
・ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	
⑪ 信州ネイチャーセンター構築事業	・・・ 17
⑫ 多様な林業の担い手確保育成事業	・・・ 18
・ 林業認知度向上対策事業	
・ 安全福利厚生対策事業	
・ 新規就業者確保促進支援事業	
⑬ 市町村森林整備支援事業	・・・ 20
・ ライフライン等の保全対策	
・ 観光地の景観整備	
・ 緩衝帯の整備	
・ 森林の病害虫被害対策（森林外・未被害市町村被害木処理）	
・ 森林の病害虫被害対策（枯損木の利活用）	
⑭ 河畔林整備事業	・・・ 22
⑮ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・ 23

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和6年度事業）

事業名等	①再造林の加速化	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	R5 ~	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	I 森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり		小項目	1 再造林の加速化

1 現状と課題

現状	○ 森林資源は着実に充実してきている一方で、林業が本来持っている「植えて、育てて、伐って、使って、また植える」といったサイクルが必ずしも循環しているといえない状況である。
課題	○ 主伐とその後の再造林を進め、人工林の若返りを図ることが契縫の課題である。 ○ 森林の高齢化が進み、CO2吸収能力も長期的に減少することが懸念される。

2 事業目的及び内容

2050ゼロカーボンの実現に向け、本県の森林がCO2吸収能力を発揮できるよう若い森林への更新を進める必要があることから、森林所有者の費用負担が大きい主伐後の再造林とその後の下刈り等に必要な標準的な経費の10/10を補助し、再造林の加速化を図る。

事業主体	市町村 森林組合 N P O 法人等	補助率	10/10 (3/10の嵩上げ)
------	--------------------------	-----	---------------------

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分 (単位：千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	93,600	174,580	244,860			513,040	
	補 正 予 算						0	
	合 計	93,600	174,580	244,860	0	0	513,040	
決 算 額		356,416	446,380				802,796	
内訳	森 林 税	106,685	140,426				247,111	
	そ の 他	249,731	305,954				555,685	国庫補助金等
次年度への繰越（枠外）		0	0				0	

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	再造林面積	目標	260ha	420ha	580ha			1,260ha	2,900ha	17%
		実績	247ha	238ha				485ha		
	達成状況・成果等		○ 地形や樹種による収益性などに地域差があるほか、主伐・地拵えまで完了しているものの植栽は翌春に行う予定地があること等から、目標面積には及ばなかったものの、下刈りや獣害防護施設等の取組を支援し、森林の確実な更新に寄与した。 ○ ニホンジカ等による苗木の被害対策のため、造林地周辺での捕獲対策を支援する事業を新設した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
□ 現行どおり実施	① 地形や林分構成が異なることから、主伐・再造林の取組に地域差が生じているとともに、取組が進んでいる地域に十分な予算配分ができない。 ② 人件費の増や低コスト造林の普及の遅れから下刈り等の作業が掛かり増しとなったことで、実績に対して予算執行額の割合が高い状態となっている。 ③ 再造林推進シカ捕獲サポート事業については、初年度であったこと、わなの見回り時期に例年と比較して積雪が多かったことから、事業実績が伸び悩んだ。	再造林に係る地域差の解消を図るため、急峻な地形が多い地域での再造林等作業を効率化するための架線設置・撤去等に係る支援に引き続き取り組む。また、要望のある地域に十分な予算配分を行う。 ② 低コスト造林の推進のため事例集の作成と普及指導に取り組むとともに、保育作業の省力化を図るため、省力化機械を導入し効率化を図る取組を引き続き支援する。 ③ 引き続き事業の周知に取り組み事業の活用を促進するとともに、造林地周辺での捕獲対策を支援する。
■ 見直して実施		
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 再造林の実績が伸びないのは、要望のある地域に予算が十分に確保されていないことが要因ではないか。 ○ 県で持っているデータを駆使し、主伐可能候補地をG I Sでマッピングして示すなどのメリハリをつけた取組が必要ではないか。
-----------------	---

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	①再造林の加速化	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
-----	----------	----	-----	-----	----------

No.	細事業（取組）名				
1	人工造林・初期保育の嵩上げ（信州の森林づくり事業）			予算 161,580 千円	決算 130,861 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10	主伐・再造林等の加速化を図るため、人工造林・下刈り等の初期保育に必要な標準的な経費への補助を嵩上げし、取組を支援	成果 再造林面積 238ha	

No.	細事業（取組）名				
2	再造林省力化モデル推進事業			予算 10,000 千円	決算 8,976 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	定額 9/10	再造林に係る地域差の解消を図るため、急峻な地形が多い地域での再造林等作業を効率化するための架線設置・撤去等に係る取り組みを支援 併せて、保育作業の作業省力化を図るため、省力化機械を導入し効率化を図る取組を支援	成果 支援件数 10	

No.	細事業（取組）名				
3	再造林推進シカ捕獲サポート事業			予算 3,000 千円	決算 589 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10	市町村が組織する「林内捕獲サポート隊」による、ニホンジカの捕獲補助等の活動に要する経費を支援。	成果 支援件数 1件	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	② 信州の森林づくり事業 (みんなで支える里山整備事業)	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H30 ~	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	I 森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり		小項目	2 防災・減災のための里山整備

1 現状と課題

現状	○ 地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等が増加し土砂災害や流木被害等が発生している。 ○ 水が集まる地形、風化しやすい地質など災害の危険性が高い里山において未整備となっている森林がある。
課題	○ 各地で頻発している土砂災害や流木被害等を防止するため、間伐等の里山整備を早急に進めることが喫緊の課題である。

2 事業目的及び内容

未整備の里山のうち、防災・減災のための優先的に整備が必要な里山の間伐等の森林整備を支援する。 <防災・減災のための里山の間伐（第3期までの未整備分）：概ね1,600ha/5年間>			
事業主体	市町村 森林組合 N P O 法人等	補助率	9/10※ ※国庫補助を併用する場合には、 国補助7/10に対し森林税から2/10を嵩上げ

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分 (単位：千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	148,200	156,200	141,775			446,175	
	補 正 予 算	0	0				0	
	合 計	148,200	156,200	141,775	0	0	446,175	
決 算 額		100,099	137,120				237,219	
内訳	森 林 税	91,036	118,359				209,395	
	そ の 他	9,063	18,761				27,824	国庫補助金等
次年度への繰越（枠外）		0	0				0	

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	間伐面積	目標	400ha	400ha	527ha			1,327ha	1,600ha	21%
		実績	160ha	177ha				337ha		
達成状況・成果等		○ 事業の周知不足及びそれに起因する森林所有者との協定締結の遅れから、実施取りやめ・翌年度へ見送りとなる箇所が発生したことにより、間伐面積は177haに留まり目標面積を下回った。								

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
□ 現行どおり実施	○ 事業の周知不足及びそれに起因する所有者との協定締結の遅れ等により、執行が進まなかった。 ○ 転用制限期間（10年）等を定めた協定締結が負担であり、事業の進捗が低調。	○ 振興局単位でキャラバンを実施し、事業を周知するとともに積極的な事業活用を促す。 ○ 協定締結の廃止等事業の改善を図り積極的な事業活用を促す。 ○ アカマツ林については間伐に代わり更新伐も支援対象として対策を進める。
■ 見直して実施	○ 松くい虫被害が2年連続微増傾向であることに加え、間伐後の残存木における松くい虫被害の発生の不安等を理由にアカマツ林において間伐が低調である	
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 当事業では間伐の回数制限（1回）がされているが、主伐可能な山づくりのためには、2～3回の間伐が必要であるので、当事業でも国基準と合わせるなど回数制限の緩和をされれば、事業に取り組みやすい。
-----------------	--

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	③ 開かれた里山整備・利用推進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
		実施期間	R5 ~	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	3 県民が広く親しめる里山づくり

1 現状と課題

現状	○ 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」は118地域（R6年度末現在）となり、地域住民の主体的な参与による里山の整備や利活用が進んでいる一方で、県民等がレクリエーション等で広く親しめる里山が不足している。
課題	○ 里山がもたらす恩恵を広く県民の皆様に実感していただくため、多くの県民等が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」の整備や仕組みづくりが必要となっている。

2 事業目的及び内容

事業目的	「里山整備利用地域」の取組を更に進め、多くの県民や県外から長野県を訪れる方が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」の整備と仕組みづくりを支援する。				
事業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">事業主体</td> <td style="width: 25%;">市町村、森林組合、里山整備利用推進協議会等</td> <td style="width: 25%;">補助率</td> <td style="width: 25%;">3/4~10/10</td> </tr> </table>	事業主体	市町村、森林組合、里山整備利用推進協議会等	補助率	3/4~10/10
事業主体	市町村、森林組合、里山整備利用推進協議会等	補助率	3/4~10/10		

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当 初 予 算	55,590	79,472	56,346			191,408	
	補 正 予 算	-21,000					-21,000	
	合 計	34,590	79,472	56,346	0	0	170,408	
決 算 額		28,293	77,648				105,941	
内訳	森 林 税	28,293	77,648				105,941	
	そ の 他	0	0				0	
次年度への繰越 (枠外)		0	0				0	

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	県民が広く親しめる里山整備利用地域の数	目標	10箇所	10箇所	10箇所			30箇所	50箇所	58% <div style="width: 58%; height: 10px; background-color: #0070C0;"></div>
		実績	16箇所	13箇所				29箇所		
達成状況・成果等			<ul style="list-style-type: none"> ○ 先行事例を県内に広く普及するとともに、様々な機会を通じて制度の周知や取組の支援等に努めた結果、目標を上回る13地域において「開かれた里山の整備・利用計画」が承認され、「開かれた里山」の整備及び利用に向けた取組が開始された。 ○ 一方で、「開かれた里山の整備・利用計画」の作成に時間を使い、森林整備の取組を次年度へ延期した箇所も見られた。 							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	① 令和5年度以降に取組を開始した29地域や今後取組を開始する地域において、住民等が主体となり多くの県民等が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」として整備するための取組を引き続き継続することが必要。	① 「開かれた里山」の整備等に取り組む地域に対して、引き続き森林整備や仕組みづくり、資機材導入等の支援を継続する。
	② 県内の「開かれた里山」に関する情報を広く周知し、より多くの県民や県外から長野県を訪れる方の利用につなげることが必要。	② ホームページ、イベント等の機会を捉えて先行事例の普及や事例集等の周知・発信を行うことで、多くの県民等の「開かれた里山」の利用につなげる。

県民会議・地域会議等からの意見	○ 活動は継続することが重要であるので、継続的な支援を検討されたい。
-----------------	------------------------------------

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	③開かれた里山整備・利用推進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
-----	------------------	----	-----	-----	------------------

No.	細事業（取組）名				
1	開かれた里山整備事業			予算 56,000 千円	決算 54,436 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	開かれた里山内の景観の向上や安全性の確保のため修景林間整備のほか、第3期まで取り組んでいた県民協働による里山整備を実施した箇所の継続的な下刈り等の取組を支援		
					整備箇所数 12箇所

No.	細事業（取組）名				
2	開かれた里山の整備・利用推進事業			予算 20,251 千円	決算 20,132 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10 3/4	「開かれた里山」の仕組みづくりや里山の自立的な整備・利活用に向けた条件整備に要する経費を支援		
					補助対象地域数 36地域

No.	細事業（取組）名				
3	開かれた里山の整備・利用推進事業			予算 3,221 千円	決算 3,080 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	委託	-	「開かれた里山」事例集の作成、シンポジウムの開催		
					事例集の作成等 1件

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和6年度事業）

事業名	④ あたりまえに木のある暮らし推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	R5 ～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	4 広く県民が利用する施設等の木造・木質化	

1 現状と課題

現状	○ 地域の森林の持続的管理には、地域で利用する木材を地域で生産する地消地産の取組が重要であるが、県民が県産材に普段から接し、その良さを感じる機会が必ずしも身近にあるとはいえない。
課題	○ 県民が木材と触れ合う機会・場を創出し、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出を図ることが喫緊の課題である。

2 事業目的及び内容

<p>県民の県産材利用に対する意識醸成を図るため、広く県民が利用する施設の木造・木質化を進め、「あたりまえ」に県産材を利用する環境づくりを進めるとともに、安全・安心に過ごせる子どもの居場所への県産材利用や木工体験活動を支援する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">事業主体</td><td style="width: 25%;">県 民間事業者等</td><td style="width: 25%;">補助率</td><td style="width: 25%;">1/3～3/4</td></tr> </table>				事業主体	県 民間事業者等	補助率	1/3～3/4
事業主体	県 民間事業者等	補助率	1/3～3/4				

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	4,234	3,973	0	0	8,207	
	当初予算	40,000	40,000	62,000			142,000	
	補正予算	-25,016	-17,131				-42,147	
	合 計	14,984	27,103	65,973	0	0	108,060	
決 算 額		10,317	22,412					
内訳	森林税	10,317	22,412				32,729	
	その他						0	
次年度への繰越(枠外)		4,234	3,973					

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	木造・木質化等の箇所数	目標	11箇所	11箇所	11箇所			33箇所	55箇所	35%
		実績	7箇所	12箇所				19箇所		
達成状況・成果等				<ul style="list-style-type: none"> ○ 広く県民が利用する施設の木造・木質化等の実施箇所について、目標11件のところ、実績12件と上回った。 ○ 事業の広報に力を入れたことで、県内の新聞における事業箇所の紹介や来年度の募集について問い合わせの増加等、事業の周知が見られ、県民が木材と触れられる場の増加を確認できた。 						

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
□ 現行どおり実施	県産材の利用に対して訴求性の向上を図るため、より波及	○ 中大規模施設の木造化への支援体制を整えるため、事業者がより利用しやすくなるよう、事業の内容や要件等を見直す。
	○ 効果の高い多くの県民が利用できる中大規模施設にも対応できるよう、事業の支援体制を整える必要がある。	○ 県産材を使用した施設事例について、NAGANOWOOD ポータルやSNS等の広報による情報発信に努める。また、事業者自らによる県産材 P R 活動を実施する。
	木造・木質化により整備された施設について、整備後、より多くの県民が訪れることができるよう情報発信を行う必要がある。	○ 新聞やSNSなど様々な媒体により、事業活用が想定される相手方を対象とした焦点を絞った情報発信を行うことで、民間事業者等が事業を知る機会を増やし、情報が確実に届くようにする。
■ 見直して実施	○ 実施箇所は増加傾向であるが、さらに一層の事業の活用を推進するため、情報発信の方法や発信先を検討する必要がある。	
□ 事業を終了	○ 木造・木質化で整備した施設が多くの人々に訪れてもらえるような取り組みも必要ではないか。	

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木造・木質化で整備した施設が多くの人々に訪れてもらえるような取り組みも必要ではないか。 ○ 木工体験の推進支援は、長野県木材協同連合会を対象とした事業であるが、支援対象者を拡充されたい。
-----------------	--

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	④あたりまえに木のある暮らし推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
-----	--------------------	----	-----	-----	----------

No.	細事業（取組）名				
1	広く県民が利用する施設等の木造・木質化			予算 38,550 千円	決算 21,056 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金 直接	1/3～2/3 － 推進	広く県民が利用する施設や子どもの居場所において、県内の施設の木造・木質化等の支援・ 推進		
			成果		
			実施箇所数 12件		

No.	細事業（取組）名			
2	木工体験の推進支援		予算 1,050 千円	決算 1,050 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容	
	補助金	3/4	小中学生等を対象とする県域で行う木工教室、木工工作に関するコンクール開催への支援	成果 参加人数 3505

No.	細事業（取組）名			
3	長野県産材 CO ₂ 固定量認証制度		予算 400 千円	決算 306 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容	成果
	直接	-	県産材を使用した建築物等のCO ₂ 固定量を認証し、認証証書を発行することで「県産材利用の環境貢献度」を周知する機会とし、県産材利用や森林づくり県民税の普及啓発を行った。	認証件数 5件

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑤ 信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業	部局	こども・若者局	課・室	こども・家庭課
		実施期間	H30 ~	E-mail	kodomo-katei@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	5 やまほいくのフィールドや学校林の整備等

1 現状と課題

現状	○ 県独自の制度である「信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度」の認定園において、安心・安全に子どもたちが活動するためのフィールド等環境整備を求める声が事業者・保護者ともに多く寄せられている。
課題	○ 認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境を充実させが必要。

2 事業目的及び内容

信州やまほいく認定園で使用する森林で行う森林の整備やそれと合せて行う付帯施設の整備に係る取組を支援

- ・森林整備（林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理）
- ・付帯施設（東屋の設置、チップ敷き、歩道整備等）

事業主体	市町村、学校法人、NPO法人等 (信州やまほいく認定団体設置者)	補助率	9/10 フィールド整備 1/2 付帯施設整備
------	-------------------------------------	-----	----------------------------

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当初予算	5,800	6,000	6,000			17,800	
	補正予算						0	
	合計	5,800	6,000	6,000	0	0	17,800	
決算額		6,346	5,672	0	0	0	12,018	
内訳	森林税	5,800	5,672				11,472	
	その他	546					546	
次年度への繰越(枠外)		0						

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	フィールド整備箇所数	目標	8箇所	8箇所	8箇所			24箇所	40箇所	38% 
		実績	8箇所	7箇所				15箇所		
達成状況・成果等			<ul style="list-style-type: none"> ○ 要望があった7園でフィールド整備7箇所、付帯施設整備1箇所を実施した。 ○ 自然保育を行う上で障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことにより、子どもたちが安全に自然体験活動を行うことができるようになった。 							

5 今後の取組の方向性等

方針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	○ 自然保育の環境を整備するうえで有利な補助事業であるため、今後も引き続きやまほいく認定園に対し、制度の周知を行い、制度の普及促進につなげる必要がある。	○ より有效地に整備されたフィールドが活用されるよう、早期の事業募集等に努める。 ○ より多くの認定園でのフィールド整備が進むよう、引き続き事例共有や情報発信等に努める。
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		○ やまほいく等の教育分野に森林税を充てていることは非常に意義がある

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑥ 学びと育ちの森づくり推進事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
			実施期間	H30 ~	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	5 やまほいくのフィールドや学校林の整備等	

1 現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 学校林等の教育に身近な森林の手入れが十分行き届いていない等により、子どもたちの森林体験学習のフィールドが十分に確保されていない。 <input type="radio"/> 森林体験学習等を安全かつ効果的に実施するための体制やノウハウも十分ではない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 子どもたちが安全に学習できる森林のフィールド確保が必要。 <input type="radio"/> 効果的な体験学習を実施できる体制の構築が必要。

2 事業目的及び内容

森林に囲まれた環境で育つ長野県の子どもたちが、森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりの土台となる豊かな原体験や知識を得られるよう、学校林や地域の里山等の身近な森林の活用を推進する。

事業主体	市町村 学校法人 N P O 法人等	補助率	9/10~10/10
------	--------------------------	-----	------------

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	6,230	8,710	6,500			21,440	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	6,230	8,710	6,500	0	0	21,440	
決 算 額		5,641	7,683				13,324	
内訳	森 林 税	5,641	7,683				13,324	
	そ の 他	0	0				0	
次年度への繰越 (枠外)		0					0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	学校林等整備の実施箇所数	目標	10箇所	5箇所	6箇所			21箇所	30箇所	80% <div style="width: 80%; height: 10px; background-color: #0070C0;"></div>
		実績	19箇所	5箇所				24箇所		
達成状況・成果等			<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 13校 (県立1、その他12校) の学校林で危険木の伐採や除間伐等の森林整備を行い、児童・生徒が森林内で安全に活動できるフィールドが確保された。 <input type="radio"/> 整備後の学校林での活動に必要な資機材の導入や指導者の受入を16校 (県立3、その他13校) で行い、効果的な活動の機会が広がった。 <input type="radio"/> 多くの学校林で森林環境教育の活動が展開されたことで、目標を達成した。 							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 担当教員の異動等に伴い、森林環境教育の継続が困難となる場合があり、継続的な活動に向けた地域ぐるみの体制構築が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 地域の団体等が事業主体となることで活動が定着している地域もあり、森林環境教育の継続的な実施が期待される。 <input type="radio"/> 引き続き、森林環境教育に取り組む学校と地域の団体等との連携を進め、地域ぐるみで継続的な活動が可能な体制構築を図る。
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 学校林の整備では、学校への積極的なPRが必要ではないか。

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	⑥学びと育ちの森づくり推進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
-----	-----------------	----	-----	-----	---------

No.	細事業（取組）名				
1	森林環境教育フィールドの整備（除間伐・危険木伐採等）			予算 4,000 千円	決算 3,722 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	森林環境教育活動の実施に必要な森林整備、施設の設置及び簡易設備の導入を支援した。（※うち、No2森林環境教育活動への支援との重複箇所 10箇所）		
					実施箇所数 12

No.	細事業（取組）名				
2	森林環境教育活動への支援（資器材の導入、指導者の派遣）			予算 2,200 千円	決算 1,749 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10	森林環境教育活動を実施するために必要な資機材の導入及び指導者の受入を支援した。（※うち、No1森林環境教育への支援との重複箇所 10箇所）		
					実施箇所数 13

No.	細事業（取組）名				
3	県立学校での森林環境教育フィールド整備及び資機材の導入・指導者の派遣			予算 2,510 千円	決算 2,213 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	直接	-	森林環境教育活動の実施に必要な森林整備、施設の設置及び簡易設備の導入、資機材の導入及び指導者の受入を実施した。（フィールド整備1校、資器材・指導者派遣3校）		
					実施箇所数 4

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑦ まちなかの緑地整備事業		部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
			実施期間	H30 ~	E-mail	toshikouen@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備	

1 現状と課題

現状	<input type="radio"/> 市街地においても景観や環境への配慮の観点から木々に親しめる緑化整備を集中的に推進することが求められている。 <input type="radio"/> ヒートアイランド現象や大気浄化などが問題となっており、市街地の緑化による生活環境の保全も求められている。
課題	<input type="radio"/> 市街地等の土地を活用した、地域住民等が利用する身近な緑地の整備が必要。

2 事業目的及び内容

都市において緑地を保全するとともに緑化を推進することにより良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与するため、市町村及び民間団体等が行う森林を身近に感じられる市街地の緑化整備等に対する経費に対し、森林税を活用した補助による支援を行う。

事業主体	市町村 民間団体等	補助率	市町村 1/2 民間団体等 1/3
------	--------------	-----	----------------------

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0			0	
	当 初 予 算	6,000	4,000	4,000			14,000	
	補 正 予 算	0	0				0	
	合 計	6,000	4,000				14,000	
決 算 額		1,000	4,000	0			5,000	
内訳	森 林 税	1,000	4,000				5,000	
	そ の 他	0	0				0	
次年度への繰越 (枠外)		0	0				0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	緑地整備箇所数	目標	2箇所	2箇所	2箇所			6箇所	10箇所	30%
		実績	1箇所	2箇所				3箇所		
達成状況・成果等			<input type="radio"/> 2箇所の緑地整備を実施することにより目標を達成したほか、魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	<input type="radio"/> 緑地整備する土地の確保、土地所有者との調整、整備後の維持管理について、地元調整に時間を要する傾向がある。	<input type="radio"/> 都市化や住宅地など開発が多い用途地域内において、緑地を確保することにより、生活環境の保全・向上を図ることができた。 <input type="radio"/> 事業の必要性、維持管理方法等について、説明会等により地元合意形成を得たうえで、計画的な事業実施を図る。
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		<input type="radio"/> 意見なし

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑧ まちなかの緑地保全（補助）事業	部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
		実施期間	R5 ~	E-mail	toshikouen@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備

1 現状と課題

現状	○ 都市化の進展により、県内の用途地域内の緑被率が1997年から2016年までの20年間で16.8%減少している。
課題	○ まちなかにおける都市機能の充実は、コンパクトシティを推進するためにも欠かせないが、緑地の減少や維持管理費等の課題から緑地の機能が有効に活用されていない。

2 事業目的及び内容

令和3年に策定した「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき、緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、街路樹をはじめとする緑地を適切に保全し、緑陰による歩行空間の快適性や良好な景観形成など緑地が持つ多様な機能を有機的に活用する。

事業主体	県 市町村	補助率	県 - 市町村 1/2
------	----------	-----	-------------------

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0			0	
	当 初 予 算	12,000	13,690	17,840			43,530	
	補 正 予 算	0	0				0	
	合 計	12,000	13,690				43,530	
決 算 額		10,031	13,671	0			23,702	
内訳	森 林 税	10,031	13,671				23,702	
	そ の 他	0	0				0	
次年度への繰越 (枠外)		0	0				0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	緑地の保全延長	目標	6.4km	6.4km	6.4km			19.2km	32.0km	33% 
		実績	4.5km	6.2km				10.7km		
達成状況・成果等			○ 対象路線のうち、街路樹状況により剪定延長が減となった。 ○ 街路樹剪定を実施することにより、緑陰の確保や良好な樹形保全に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施		
□ 見直して実施	○ さらなる良好なまちなみ空間確保のため、グリーンインフラ推進計画のエリアビジョンを拡大させる必要がある。	○ まちなかの緑地を適切に保全し、街路樹の緑陰による快適な空間や景観形成が進められるよう、市町村と連携してエリアビジョンの見直しに向けた検討を進め、グリーンインフラの保全に引き続き取り組む。
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		○ 樹木が人々に愛されるためには、基盤整備が重要だと考えるため、街路地を含めた市街地住宅地の樹木整備への資金配分を充実させていただきたい

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事 業 名 ⑧まちなかの緑地保全（補助）事業 部局 建設部 課・室 都市・まちづくり課

No.	細事業（取組）名			
1	まちなかの緑地保全事業	予算 11,000 千円	決算 11,000 千円	
	実施方法		令和6年度実施内容	
	直接	-	「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、県が管理する街路樹の保全を実施	整備延長 3.3km

No.	細事業（取組）名			
2	まちなかの緑地保全補助事業		予算 2,690 千円	決算 2,671 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容	
	補助金	1/2	「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、市町村が管理する街路樹の保全を支援	整備延長 2.9km

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑨ 観光地周辺の街路樹整備	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	H30 ~	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備

1 現状と課題

現状	○ 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな自然を活かした観光地の魅力向上が不可欠。
課題	○ 観光地の魅力向上に向けた主要道路沿線の景観整備が必要。

2 事業目的及び内容

事業目的	山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施する。
事業内容	事業主体 長野県 補助率 -

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	10,000	10,000	10,000			30,000	
	補 正 予 算						0	
	合 計	10,000	10,000	10,000	0	0	30,000	
決 算 額		10,000	10,000				20,000	
内訳	森 林 税	10,000	10,000				20,000	
	そ の 他	0					0	
次年度への繰越 (枠外)		0					0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	整備延長	目標	4.0km	5.8km	2.2km		12.0km	20.0km	46% 
		実績	3.4km	5.8km			9.2km		
達成状況・成果等		○ 諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施		
□ 見直して実施	○ 観光地周辺の街路樹整備について、交通量が多いため、通行への影響を考慮して実施区間の精査を行った。	○ より良い景観の整備に繋がるよう、専門家の意見を聞きながら、街路樹の適正な維持管理に努める。
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		○ 特になし

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑩ 森林サービス産業総合対策事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
		実施期間	R5 ~	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業体への支援		小項目	7 森林サービス産業など森林の多面的利用の支援

1 現状と課題

現状	○ 近年、森林空間を健康・教育・観光分野において活用する「森林サービス産業」は、山村地域の活性化策として期待されている。
課題	○ 本県の豊かな森林を維持していくためには地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。 ○ 森林所有者の関心の低下等により、森林との関わりが希薄になっている。 ○ 本県の魅力である里山の有効活用のため、地域の里山への関心向上を図る必要がある。

2 事業目的及び内容

森林の多面的な利活用を推進するため、健康・教育・観光分野の森林整備等に係る費用の支援や、企業との連携による森林整備の推進、森林セラピーに携わる人材の育成など、地域における主体的な活動を支援する。			
事業主体	長野県 市町村等	補助率	— 1/2 ~ 9/10

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	1,740	0	0	0	1,740	
	当 初 予 算	19,933	30,851	29,464			80,248	
	補 正 予 算	-1,200					-1,200	
	合 計	18,733	32,591	29,464	0	0	80,788	
決 算 額		16,604	27,999				44,603	
内訳	森 林 税	16,656	27,999				44,655	
	そ の 他						0	
次年度への繰越 (枠外)		1,740					1,740	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率			
①	森林サービス産業により組む地域プロジェクト数	目標	10PJ	10PJ	10PJ			30PJ	50PJ	40% 			
		実績	10PJ	10PJ				20PJ					
達成状況・成果等			※ PJ : 「プロジェクト」の略。										
			○ 森林空間・施設整備に係る補助などの活動支援や森林を核にした地域の魅力発信を行える人材の育成により、意欲的に森林サービス産業に取り組もうとする地域を掘り起こすことができた。										

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
□ 現行どおり実施	① 森林サービス産業に携わる者の裾野を拡大するためには、事業者、利用者等の主体が交流し、情報交換を行える場が必要。 ② 新たに森林サービス産業に取り組む際には、起業や森林の利活用に関するノウハウが不足。起業に係る費用負担が大きい。	① 「信州森林サービス産業推進ネットワーク」により事業者や起業に関心のある者等、多様な主体が交流し情報交換を行える場を作り、森林利活用に携わる者の裾野拡大を図る。 起業に関するセミナーの開催、専門家派遣による伴走支援、 ② 起業時の費用の補助など、新たな森林サービス産業の創出を支援する。
■ 見直して実施		
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		○ 森林浴発祥の地である赤沢自然休養林を有している長野県として、森林浴を新産業として世界に打ち出していくんだという意気込みを持って産業創出をして欲しい

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	⑩森林サービス産業総合対策事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
-----	-----------------	----	-----	-----	------------------

No.	細事業（取組）名				
1	森林サービス産業活動支援事業（森林空間整備・施設整備）			予算 15,910 千円	決算 14,972 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10以内 又は 1/2以内	森林セラピー等の安全性と利便性の向上のため、施設整備（歩道の補修、看板の設置等） 修景林整備（支障木等の伐採）に係る経費を支援		
					整備個所数 11箇所

No.	細事業（取組）名				
2	森林サービス産業活動支援事業（創業・地域活動支援）			予算 9,049 千円	決算 6,733 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	委託	—	地域における森林空間の利活用を促進するため、森林サービス産業の創業を検討する地域や 活動における課題を抱える地域に対し、専門家を派遣し活動を支援		
					創業・活動支援 14者

No.	細事業（取組）名				
3	森林サービス産業活動支援事業（企業連携活動）			予算 1,135 千円	決算 382 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	直接	—	新規契約の締結に向けて企業との協議や、イベント等でパンフレットを配布しPRを実施。企業 のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを促進		
					契約件数 8件

No.	細事業（取組）名				
5	森林サービス産業人材育成支援事業			予算 5,892 千円	決算 5,836 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	委託	—	地域において森林サービス産業等、森林の活用に主体的に取り組める人材を育成するため、 森林のガイドや森林を活用して地域を活性化するコーディネーターの育成研修を実施		
					育成研修 37回

No.	細事業（取組）名				
6	地球温暖化防止吸収源対策推進事業			予算 252 千円	決算 76 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	直接	—	森林の里親促進事業で里親契約されている企業が実施した森林施業（間伐及び植林）による森林のCO ₂ 吸収量の認証を実施。		
					CO ₂ 吸収量 2,019 t -CO ₂

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑪ 信州ネイチャーセンター構築事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
		実施期間	H30 ~	E-mail	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業体への支援		小項目	7 森林サービス産業など森林の多面的利用の支援

1 現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくために、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要。 ○ 森林資源を有効に活用し、観光や環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出するとともに、環境保全の意識向上につながることができる人材を育成することが必要。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林資源・空間の保護と利用の両立を目指す「エコツーリズム」の普及と定着に取り組むガイド人材の育成。

2 事業目的及び内容

森林をはじめとした自然環境を持続的に活用するため、中長期的に質の高いサービスを提供できるエコツーリズムガイドを育成する必要があることから、エコツーリズムガイドの人材育成を目的とした研修を実施。

事業主体	長野県	補助率	-
------	-----	-----	---

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	1,900	2,000	2,000			5,900	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	1,900	2,000	2,000	0	0	5,900	
決 算 額		1,900	1,999					
内訳	森 林 税	1,900	1,999				3,899	
	そ の 他						0	
次年度への繰越 (枠外)								

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	エコツーリズムガイドの育成人数	目標	5人	5人	5人			15人	25人	56% 
		実績	6人	8人				14人		
達成状況・成果等			<ul style="list-style-type: none"> ○ エコツーリズムガイドの人材育成を目的とした研修を実施し、中長期的な活動が見込める世代の参加者が29名中、8名あった。 ○ 実践的な技術や知識の習得に加え、共通の目的意識を持った参加者との交流を通して、エコツーリズムガイドとして活動する将来像が具体化した、または契機となったという意見が多くあったことから、短期間でも効果的な研修になった。 							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施		
□ 見直して実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中長期的な活動が見込める世代のガイド人材の裾野を拡大 ○ するともに、講師による実践的な技術や知識の習得に加え、自然公園等の利用実態を反映したカリキュラムの構築が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ より実践的な内容の研修となるようカリキュラムの見直しを検討し、今後もガイド人材の育成に継続して取り組む。
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見なし
-----------------	--

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑫ 多様な林业の担い手確保育成事業			部局	林務部	課・室	信州の木活用課
実施期間	R5 ~			E-mail	rin-ninaita@pref.nagano.lg.jp		
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林业活動に取り組む多様な人材・事業体への支援	小項目	8 多様な林业の担い手の確保・育成			

1 現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の林业系専科をもつ高校では、募集定員に達せず再募集を実施すること多く、将来の就林人口の確保と定着率のアップにつなげるためには、将来の職業を意識し始める中学生に対して職業としての林业を浸透させていくことが必要である。 ○ 多様化する森林へのニーズに対応し、山村地域の交流人口の増加を図るとともに、将来の林业就業者となり得る理解者の裾野の拡大に向けた支援策が必要である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育面からみると、小学校学習指導要領では「森林」を環境面で捉え取り上げられている一方で、中学校では森林や林业を学ぶカリキュラムがない。 ○ 小規模で地域の需要に柔軟に対応できる個人事業者等は、林业への新規参入が比較的容易で、他産業との兼業などにより、地域の林业を支える重要な担い手となり得るが、支援策が手薄となっている。

2 事業目的及び内容

- 県内中学校に対する林业職場体験を推進していくため、実態調査の実施や説明会の開催及び中学生向けの動画教材作成等の実施に向けた支援
- 将来の林业就業者となり得る理解者の裾野拡大に向けた林业の認知度向上を目的としたイベント等の開催
- 地域の需要に柔軟に対応できる個人事業者等が実施する安全装備の導入及び福利厚生に対する取組、新規就業者の確保促進に向けた就業準備及び他産業との兼業等の連携活動の支援

事業主体	県 長野県林业労働力確保支援センター	補助率	— 10/10以内
------	-----------------------	-----	--------------

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分(単位:千円)		R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当初予算	11,530	18,953	20,768			51,251	
	補正予算	-6,530	-6,816				-13,346	
	合計	5,000	12,137	20,768	0	0	37,905	
決算額		5,432	11,455				16,887	
内訳	森林税	5,432	11,455				16,887	
	その他	0	0				0	
次年度への繰越(枠外)		0	0				0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標値(R9)	第4期目標達成率	
①	多様な林业に関わる新規就業者数	目標	40人	40人	40人		120人	200人	30%	
		実績	35人	25人			60人			
達成状況・成果等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 林業就業者数は4年連続で増加となったが、多様な林业に関わる新規就業者数は目標達成に至らず、令和6年度から新規拡充した支援策の浸透について課題が見られた。 ○ 林業の認知度向上対策においては、将来林业の理解者となり得る裾野拡大を図る取組として、子ども・若者を中心に広く林业をPRする機会となった。 								

5 今後の取組の方向性等

方針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
□ 現行どおり実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の活用について、「補助の対象が分からない」や「補助制度が活用しにくい」という声がみられた。 ○ 制度の認知がまだ薄い状況があるため、支援制度を含めた情報発信により注力する必要がある。 	<p>① 事業要件等を見直しながら引き続き支援制度を継続するとともに、整備した林业の情報を統一的に発信するプラットフォームを活用し、林业の認知度向上に向けた取組みを強化する。</p> <p>② 農業と林业との連携や地域と連携したモデル的な取組みも見られ、林业への多様な関わり方による担い手確保や、外国人材の活用に向けた検討に取り組む。</p>
■ 見直して実施		
□ 事業を終了		
県民会議・地域会議等からの意見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の活用が少ないので、事業の認知度が低いことが要因ではないか ○ 林業に携わる人材の育成は最重要課題では

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	⑫多様な林業の担い手確保育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
-----	------------------	----	-----	-----	---------

No.	細事業（取組）名				
1	林業認知度向上対策（林業職場体験）			予算 2,125 千円	決算 2,090 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	委託	-	○県内中学校（東信地区31校）に対する林業職場体験等の実態調査の実施及び林業事業者に対する林業職場体験推進に向けた説明会の開催 ○林業職場体験の実施に向けた支援として、中学生向けの動画教材を作成		
					成果 実態調査 31校

No.	細事業（取組）名				
2	林業認知度向上対策（支援センター補助）			予算 8,182 千円	決算 9,052 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10以内	○認知度向上を目的としたイベントの開催等のPR活動 ○林業に関する情報を統一的に発信するためのプラットフォームの整備		
					成果 PRイベント開催 4件

No.	細事業（取組）名				
3	新規就業者確保促進支援			予算 5,615 千円	決算 803 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10以内	○多様な林業の担い手が新規就業者を雇用した際に資機材等を準備する経費を支援 ○他産業からの受入れ（兼業）や林福連携に取り組む事業体を支援		
					成果 兼業等に受け入れ支援 3社10回

No.	細事業（取組）名				
4	安全福利厚生対策			予算 3,431 千円	決算 377 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	10/10以内	多様な林業の担い手が取り組む安全装備の導入及び振動病特殊健診の受診や蜂アレルギー検査受診、退職金共済制度への加入等に対して支援		
					成果 安全装備の導入 11名

No.	細事業（取組）名				
5	外国人材就林検討事業			予算 516 千円	決算 34 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	直接	-	○県内事業体、市町村、県職員向けに技能実習・特定技能に関する法改正等に関する勉強会の開催（42者59名）		
					勉強会の開催 2回

No.	細事業（取組）名				
6	一人多役による林業連携事業			予算 1,209 千円	決算 1,188 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	委託	-	一人多役の働き方の先行事例の調査、多様な働き方の潜在的ニーズの調査、労働力のマッチングにあたっての課題等の整理を実施		
					先行事例の調査 5件

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑬ 市町村森林整備支援事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	R5 ~	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	IV 市町村と連携した森林等に関する課題の解決		小項目	9 ライフライン等保全対策 他

1 現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 倒木によるライフラインへの被害による停電や交通への影響の他、野生鳥獣による人身事故等が発生しており、県民生活に影響を与えている。 ○ 手入れの遅れや森林病害虫被害等による観光地の魅力低下や、病虫害による枯損木が処理できず放置されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ ライフライン等を保全するための予防的な森林の整備・対策や野生動物が出没しない森林環境の整備が必要 ○ 観光地の魅力向上に向けた森林整備の推進や国庫補助対象外の森林病害虫被害・枯損木への対策が必要

2 事業目的及び内容

ライフライン沿いの森林整備や緩衝帯の整備、病害虫被害対策等、各地域の住民生活に直結する個別の課題に対して、地域の実状に精通した市町村がきめ細やかな対応を行う必要があることから、市町村が実施する個別の課題解決に向けた森林整備の取組を支援する。

事業主体	市町村	補助率	1/2~9/10
------	-----	-----	----------

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当初予算	166,512	175,300	166,300			508,112	
	補正予算	-6,962					-6,962	
	合計	159,550	175,300	166,300	0	0	501,150	
決算額		148,415	172,626				321,041	
内訳	森林税	148,415	172,626				321,041	
	その他	0					0	
次年度への繰越(枠外)								

4 指標及び達成状況

No.	成果指標	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	達成率
①	ライフラインの保全箇所数	目標	50箇所	30箇所	20箇所		100箇所	150箇所	72% 
		実績	59箇所	49箇所			108箇所		
②	観光地の景観整備箇所数	目標	20箇所	20箇所	20箇所		60箇所	100箇所	48% 
		実績	28箇所	20箇所			48箇所		
③	緩衝帯の整備箇所数	目標	20箇所	38箇所	35箇所		93箇所	100箇所	57% 
		実績	20箇所	37箇所			57箇所		
④	森林病害虫の被害木処理材積	目標	1,080m³	1,080m³	800m³		2,960m³	5,400m³	17% 
		実績	471m³	470m³			941m³		
⑤	森林病害虫の枯損木利活用材積	目標	2,000m³	2,000m³	2,800m³		6,800m³	10,000m³	30% 
		実績	832m³	2,123m³			2,955m³		
達成状況・成果等		①～③ 概ね目標以上の箇所での対策を実施。ライフライン沿いの危険木や緩衝帯等が整備され、住民の生活に身近な森林が与えている不安の解消に寄与した。 ④ 森林病害虫被害を受けている市町村での被害拡大対策に柔軟に活用されたが、処理量は想定を下回り、目標を達成しなかった。 ⑤ 松くい虫被害やナラ枯れ等による枯損木について目標を上回る対策が行われ、バイオマス利用等の有効活用に繋がった。							

5 今後の取組の方向性等

方針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
<input type="checkbox"/> 現行どおり実施 <input checked="" type="checkbox"/> 見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を終了	① 野生動物による人身事故や台風等で発生した倒木によるライフライン被害の発生を受け、事業ニーズが以前と高い。 ② 対象とする森林での病害虫被害の発生量が想定より少なく、実績は目標を下回っている。	① ニーズの増加を踏まえ、各市町村の状況を詳細に聞き取りながら、取組を加速化するために事務の簡素化や計画を前倒して早期に実施することを含めて検討する。
県民会議・地域会議等からの意見		○ ライフライン等の保全対策の要望が引き続き多い状況。継続的な支援を求める。 ○ 緩衝帯の整備を実施した箇所も数年もすれば元通りとなるため、継続的な支援を求める。

細事業一覧（令和6年度実施事業分）

事業名	⑬市町村森林整備支援事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
-----	--------------	----	-----	-----	-------

No.	細事業（取組）名				
1	ライフライン等の保全対策			予算 63,000 千円	決算 62,969 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	電線や道路などのライフラインへ被害を与える危険性の高い立木の伐採に係る経費を支援	成果 整備箇所数 49箇所	

No.	細事業（取組）名				
2	観光地の景観整備			予算 24,300 千円	決算 25,710 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	観光地等の修景林間整備や眺望確保のための伐採などの地域の魅力向上を図るために実施する森林整備に要する経費を支援	成果 整備箇所数 20箇所	

No.	細事業（取組）名				
3	緩衝帯の整備			予算 28,000 千円	決算 32,656 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	野生鳥獣による被害を防止するために行う、林内の除伐や刈り払い等による緩衝帯の整備に要する経費を支援	成果 整備箇所数 37箇所	

No.	細事業（取組）名				
4	森林の病害虫被害対策 (森林外・未被害市町村被害木処理)			予算 20,400 千円	決算 9,872 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	1/2	国庫補助の対象とならない森林外で確認された松くい虫被害木や未被害市町村での松くい虫被害木に係る伐倒駆除に要する経費を支援	成果 処理量 470m ³	

No.	細事業（取組）名				
5	森林の病害虫被害対策（枯損木の利活用）			予算 39,600 千円	決算 41,510 千円
	実施方法	補助率	令和6年度実施内容		
	補助金	9/10	森林病害虫により被害を受け枯損した木を伐採・搬出し、チップ等として有効活用する取組に要する経費を支援	成果 利活用材積 2123m ³	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑯ 河畔林整備事業	部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30 ~	E-mail	kasen-chisui@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	IV 市町村と連携した森林等に関する課題の解決	小項目	10 河川沿いの支障木等伐採	

1 現状と課題

現状	○ 河川区域に隣接する河川区域外（民地）の立木地（河畔林）は、所有者の手入れが行き届かず、密生した細く倒れやすい木が豪雨時に流れ、橋梁部で川をせき止めるなど、洪水被害の発生や拡大の要因となる恐れがある。
課題	○ 洪水被害の発生や被害拡大を防止するため、河川へ倒木・流出する恐れのある立木等の除去が必要

2 事業目的及び内容

洪水時の流出木を減することで、洪水被害を未然に防止・軽減するため、河畔林における除間伐を実施する市町村の取組を支援する。

事業主体	市町村	補助率	1/2
------	-----	-----	-----

3 予算及び決算額

(単位:千円)

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	39,375	40,050	42,480			121,905	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	39,375	40,050	42,480	0	0	121,905	
決 算 額		38,510	40,050	0	0	0	78,560	
内訳	森 林 税	38,510	40,050				78,560	
	そ の 他	0					0	
次年度への繰越 (枠外)		0					0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標達成率
①	整備箇所数	目標	14箇所	14箇所	17箇所		45箇所	70箇所	53% 
		実績	19箇所	18箇所			37箇所		
達成状況・成果等		○ 入札差金を活用し追加要望箇所に配分することで、目標以上の箇所での河畔林整備を実施し、地域の抱える水害リスクの軽減に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	○ より効果的な事業実施につなげるには事業箇所の選定が重要であり、洪水被害の発生・拡大要因となる恐れが大きく、緊急性の高い箇所の選定に際して、市町村への支援・協力が必要。	○ 被害発生のリスクのある箇所は各地に存在することから、市町村と連携し、引き続き目標達成に向けて取り組む。
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 意見なし
-----------------	--------

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和6年度事業)

事業名	⑯ みんなで支える森林づくり推進事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20 ~	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	V 普及啓発、評価検証	小項目	13 森林づくりを推進するための普及啓発、森林税事業の評価・検証	

1 現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県政アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が87%に及び、特に若年層の理解が広がっていない。 ○ 県民会議、各圏域での地域会議等による森林税活用事業の評価・検証を実施。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林税に関する県民の理解を一層広げ、特に理解が薄い層への効果的な広報が必要。 ○ チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議・地域会議による森林税活用事業の評価・検証が必要。

2 事業目的及び内容

<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林の役割や森林づくりの重要性等について県民の理解を深めるとともに、森林づくりの取組が進むよう、様々な媒体やイベントなどによる広報及び森林税の見える化を図るため、地域の実状に応じた広報・普及啓発を実施。 ○ 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聞くため、県民会議及び地域会議を開催。 				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">事業主体</td> <td style="width: 25%;">県</td> <td style="width: 25%;">補助率</td> <td style="width: 25%;">-</td> </tr> </table>	事業主体	県	補助率	-
事業主体	県	補助率	-	

3 予算及び決算額

区分 (単位:千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	8,200	8,526	7,128			23,854	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	8,200	8,526	7,128	0	0	23,854	
決 算 額		6,005	6,706	0	0	0	12,711	
内訳	森 林 税	6,005	6,706				12,711	
	そ の 他	0					0	
次年度への繰越 (枠外)		0	0				0	

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	達成率
①	森林税の使途認知度	目標	40%	40%	40%			-	40%	98% 
		実績	13%	26%				39%		
達成状況・成果等			<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域情報誌やイベント開催、看板等の物品製作・設置によるPRなど、様々な方法で森林税の使途の認知度向上が図られるよう努め、森林税の使途認知度については目標に達しないものの、前年度から倍となる、26%に上昇した。 							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施		<ul style="list-style-type: none"> ○ 20代～50代の使途の認知度が低調であり、デジタル媒体や広報紙等、発信する相手に合わせた、情報発信が求められている。
□ 見直して実施		<ul style="list-style-type: none"> ○ 若い世代にも広く届くよう、SNS等のデジタル媒体を活用した広報を展開するとともに、県民が受動的に情報を受け取ることができるプッシュ型の広報を実施
□ 事業を終了		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域広報誌やラジオ等の既存の広報については継続して実施
県民会議・地域会議等からの意見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林税の使途をわかりやすく伝えるため、整備実施箇所に看板やプレートの設置を検討しては。 ○ 新聞や地元広報紙への掲載に加え、SNSの積極的な活用も効果的では。